

患者・国民の願いに背く日本歯科医学会会長の 「補綴外し」発言に強く抗議する

9月2日の『日刊歯科通信』で日本歯科医学会の江藤一洋会長が、7月に大阪で開催された日本歯科医療管理学会学術大会の「歯科医療再生の道をさぐる」と題した講演で、補綴を保険から外す旨を発言し、日歯会長に厳重注意を受けたことが報道された。

補綴は、咀嚼機能を維持するために不可欠な歯科医療の根幹をなす処置であり、国民の健康維持や増進、生活にとってかかせない。補綴を保険から外せば、国民の健康や生活への影響は甚大なものになることは疑いない。

度重なる医療制度改悪や、格差社会の広がり、患者の歯科受診を著しく阻害している。既に経済的な理由から補綴治療を断念する事態や、受診さえできない患者が多数生まれている。補綴を保険から外せば、歯科医療の根幹を一部の経済負担ができる患者しか受けることができなくなる。

国民の「保険で良い歯科医療を提供してほしい」という願いはますます強くなっており、この願いに背を向けた歯科医療の改善などありえない。もし歯科界自らが国民・患者の願いに反する道を選択すれば、国民の信頼を失うのみならず、本来、保険給付の範囲拡大など、歯科医療改善で連帯できる国民を敵に変えてしまいかねない。歯科医療の危機は加速し、再生など不可能になるだろう。国民の要求により沿い、共に道を歩むことが歯科医療改善への最善・最良の道である。

私たちは、いつでも、どこでも、誰もが安心して受けることができる歯科医療の実現を目指す立場から江藤氏の「補綴の保険外し」発言に対し、強く抗議すると共に、今後も、誰もが安心して受診できる保険で良い歯科医療の実現を目指して全力を尽くす決意である。

2008年9月13日

大阪府歯科保険医協会 第17回理事会